

# 令和元年度指定管理業務に関する事業報告書（デイサービス）

施設名 京都市本能  
老人デイサービスセンター

## 1 施設の管理運営

|   |
|---|
| 【開所日及びサービス提供時間】<br>年中無休 午前9時30分～午後4時45分 ※延長サービス：午後4時45分～午後7時00分   |
| 【利用定員】<br>35名   |
| 【送迎実施地域】<br>京都市中京区（下立売通以南・西大路通以東・河原町通以西）、<br>上京区（下立売通以南・河原町通以西）、下京区（花屋町通以北・西大路通以東・<br>河原町通以西）、右京区（西大路通以東） |
| （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容  |

## 2 事業実施内容

|  |
|--|
| 【グループレクリエーション】<br>・従来の一律的全体のレクリエーションでなく、小グループでのレクリエーションの実施により、今まで以上にお一人おひとりの嗜好やニーズに沿ったレクリエーション活動を実施している。<br>・楽しみながら自然と身体を動かせる「遊びリテーション」を取り入れたり、リハビリテーションの実施により、自立支援と介護予防の推進を図ることが出来るようになっている。<br>・ご利用者が在宅で社会参加を維持できるため、ご利用者同士で小グループを作り、立案から実施までをスタッフが支援する取り組みを行っている。 |
| 【社会参加型機能訓練】<br>・従来の施設内における機能訓練の実施はもちろんのこと、施設内では経験のできない環境への適応力の支援や在宅での日常生活につながるための機能訓練を施設外で行うことで、暮らしの継続の促進を行っている。   |
| 【運営日、通常時間の拡大】<br>・ご利用者のニーズに応え、日曜日、祝日、年末年始のサービス提供を行っている。<br>・ご利用者・ご家族のニーズに基づき、夕方の延長サービスを提供している。   |
| 【介護技術・知識の向上】<br>・全職員を対象に法人及び当施設で、人権研修、介護技術研修を計画的に実施している。<br>・ケアの質・視点・技術が維持向上できるよう、外部の研修にも積極的に参加している。   |
| 【ご家族との連携】<br>・「ファミリー会」と称して、日頃の在宅介護の悩みや介護に関する勉強会などを実施することで参加した家族同士のピアカウンセリングを促進すると共に、家族同士のつながりを大切にしている。<br>・デイサービスでの状況をご家族にお知らせする為、機関紙「のぶなが君だより」を発行するとともに、ホームページでの情報提供を行っている。   |
| 【社会貢献】<br>・初任者研修、介護福祉士、社会福祉士希望の実習生などを施設全体で受け入れている。<br>・学区民を対象に、認知症研修、介護技術研修、地域福祉の取組についての検討会を行い、地域協働の視点を育成した。また、他事業と連携し、福祉の人材養成を支援した。   |
| （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容   |
| （参考）自主事業内容   |

## 3 サービス提供状況

|  |
|--|
| 【職員体制】<br>施設長1名、総務・介護部長1名、通所介護係長2名、生活相談員4名（兼職）、看護師2名、介護職員14名、管理栄養士1名、機能訓練指導員2名（兼職） |
| （参考）今後実施予定の指定管理者提案内容   |

## 4 市内中小企業への発注に対する考え方

|  |
|--|
| 市内中小企業に事業を委託する場合は、以下の考え方に従って業者選定をしている。<br>委託への考え方<br>（1）業務内容が専門的な知識を必要とし、かつ施設内の職員では対応が困難な業務の場合。<br>（2）法人が専門的に行う業務ではないため、専門に行う業者のほうがより効率的に、かつ質の高いものを提供できると判断できる場合<br>（3）業務内容は簡易であるが、行う人材を集めることが容易でない場合、その業務を行える人材を集めることに特化した業者がある場合<br>また、備品購入等の発注については、市内の業者を優先して活用している。 |
|--|

## 5 施設の利用状況（施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) 実利用人数（実績値）

10,786 人

(2) 稼働率（実績値）

84.2 %

(3) 収支実績

ア 令和元年度収入状況（単位：円）

|        |             |
|--------|-------------|
| 介護保険収入 | 110,556,723 |
| 利用料収入  | 9,969,700   |
| 委託料収入  | 0           |
| 補助金収入  | 0           |
| 寄付金収入  | 0           |
| 雑収入    | 5,415       |
| その他    | 726,838     |
| 収入計    | 121,258,676 |

イ 令和元年度支出状況（単位：円）

|       |             |
|-------|-------------|
| 人件費   | 78,524,229  |
| 事業費   | 11,399,062  |
| 委託費   | 5,683,104   |
| 小額修繕費 | 1,825,295   |
| その他   | 14,677,112  |
| 支出計   | 112,108,802 |

## 6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

毎年ご利用者・ご家族へのアンケート調査を実施している。  
アンケート結果は集計後、検討会議を開催し、ご利用者・ご家族へ検討結果を書面でお知らせしている。日頃の様子は、送迎の際に口頭でお伝えするとともに、お伺いしたことについては申し送り時に報告している。  
その他、ご利用者ごとに連絡ノートを作成し、ご家族との日頃の情報交換を密に行う事で、ご利用者の満足度を把握するように努めている。

(2) 利用者満足度把握の結果

結果については、適宜、利用者及びご家族へ返答すると共に、ケア内容やケアプラン等に活かしている。また、アンケート結果については、施設ホームページに掲載している。  
加えて、年1回、法人本部に結果を報告し、理事会・評議員会等へも必要に応じて報告されている。

(3) 意見等への主な対応状況

面談や電話などのお申し出の場合は、適宜対応し、一両日中に回答している。  
投書や文書等で申し出の場合は、実態調査を行った上で、調査結果を代表者会議で報告している。その後、職員に周知し、施設内に苦情内容と回答を掲示しており、各部署の会議やリスクマネジメント委員会においても議題に挙げ、当該部署だけでなく、様々な職員が関わる機会を設けている。また、これらの内容については毎月の特養家族会で文書・口頭での報告を行っている。  
これらによるご入居者・ご家族のご意見を踏まえ、サービスの質の向上に向けて、法人・施設内研修の充実、法定基準以上の人員配置、居住環境の改善などに取り組んでいる。

## 7 その他特記事項

(1)

(2)

## 8 評価（指定管理者自己評価）

- (1) できる限り住み慣れた自宅で、楽しく、尊厳のある生活を送るための方法を模索してきた。その一環である「京都式えらべるデイサービス」は、自己選択と自己決定を基本に、自宅でも継続して実施できる楽しみの創出、機能訓練、社会参加への喜びを提供することができた。
- (2) 延長サービスについては、ケアマネジャーとの連携を図り、独居高齢者の安心、安全、ご家族の介護負担の軽減ができ、より安定的に在宅生活を継続出来る支援ができていると考えます。
- (3) ショートステイとも連携し、共通利用者の情報を共有することにより、施設での生活と自宅での生活が乖離する状況を少しでも軽減し、在宅生活の継続の一翼を担うことができた。
- (4) 公施設としての役割を踏まえ、積極的に地域福祉活動に参画してきた。また、定期的に広報誌を配布することにより、施設の取り組みなどを発信することができた。